

令和三年度

さいたま市立岩槻中学校だより

1月号(令和4年1月7日発行)



槻の若木

〒339-0054 岩槻区仲町1-14-35

電話：048-756-0254

FAX：048-758-7483

HP：<http://iwatsuki-j.saitama-city.ed.jp>

Mall：iwatsuki-j@saitama-city.ed.jp

『次へ』 ～世界で活躍する若者～

校長 松戸 政世史

新年明けましておめでとうございます。令和4年がスタートしました。1年生は、自分の努力を自信に変え、2年生は、力(学力や体力など)を蓄え、3年生は、仲間と進路を切り拓くときです。新年を迎え、生徒一人ひとりが、それぞれの夢に向かって挑戦し、充実した学校生活を送ってほしいと思います。保護者・地域の皆様には、コロナ感染症対策も含め、引き続き、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

さて、私の年初の行事は、2つあります。1つ目は、姫路市にある圓教寺で行われる『新春・夢の書』で揮毫される今年の一文字をみることです。令和4年度の一文字は、『悦』。大樹住職は、「皆様にとって、悦びに満ちた一年となりますよう祈念いたしております。」とお話をされていました。

2つ目は、第98回箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)の応援をすることです。大会は、東京オリンピック選手が出場するなど、選手一人ひとりの力がレベルアップする中、三大大学駅伝である、10月の第33回出雲駅伝を初出場初優勝した東京国際大学、11月の第53回全日本大学駅伝を14回と最多優勝回数を更新した駒澤大学、エントリー選手16人全員が、1万mを28分台の記録を持つ過去最強の青山学院大学を中心に、レースが展開されました。

昨年度、超スローペースの展開となった1区は、吉居選手(中央大学)が独走し、2007年の佐藤選手の記録を破っての区間新でスタートしました。花の2区では、留学生が20人抜きなど好記録を出す区間で、田沢選手(駒澤大学)が留学生を抑えて、区間賞を出し、駒澤大学の2連覇に向け勢いをつけました。勝者が「山の神」と称される5区では、細谷選手(帝京大学)が、2年連続の区間賞を出し、4年生中心の帝京大学が、往路では同大学初の2位でゴールし、青山学院大学が、区間賞は出なかったものの、往路を制しました。復路の6区では、牧瀬選手(順天堂大学)が、同大学として31年ぶりの区間賞を出し、津田選手の8区20年ぶりの区間賞と合わせて、15年ぶりの総合で2位となりました。そのような中、青山学院大学が、2年ぶり6回目の総合優勝を復路新記録、総合新記録のタイムで圧勝しました。3区以降は首位を譲らず、各大学が怪我で出場できない選手を抱えるなか、骨折から復帰した岸本選手の7区区間賞で総合優勝を確かなものとし、9区で中村選手が14年ぶりの区間新、10区で中居選手が区間新を出し、復路新記録、総合新記録での優勝となりました。

また、今年もドラマがありました。中学校教師である今井選手は31歳。勤務校を2年間休職し、駿河台大学に入学して箱根駅伝出場を目指し、初出場を果たした同大学は、過去に3校しか達成していない、襷(たすき)を1区から10区まで繋ぐこと(1位が出発してから20分以内に出発できないと、代わりの襷をつけて出発しなければならぬ)ができました(過去には、亜細亜大学の選手で、初出場では繋がらなかった襷を監督として大学に戻って初優勝した人も)。来年、予選を勝ち抜かなくても大会に参加できるシード権は、10位以内にゴールすること。復路出発時点では、復路8位創価大学から14位国土館大学のタイム差は2分余り、1つの区で逆転可能な範囲です。目まぐるしく順位が入れ替わり、9位帝京大学、10位東海大学で10区も終盤に差し掛かった、ゴールまで残り1km近く、法政大学が、東海大学を抜き去って、10位でゴールし、見事、来年のシード権を獲得しました。その差は10区217.1kmで52秒、東海大学の選手は、涙ながらに襷を繋ぐためにだけにゴールしました。スポーツには、勝者と敗者があり、厳しさを感じた瞬間でした。

結びに、箱根駅伝を人生の拠り所にして、様々な世界で頑張っている方が多くいます。皆さんも、自分が一心に取り組んだことは、自分にとって大切な心の支えとなります。将来、それぞれの世界で活躍する皆さん、自分が打ち込めるものを見つけ、一心に究める姿勢で頑張ってください。